

「つながる世界の開発指針」の普及展開

SEC調査役 宮原 真次 SEC研究員 小崎 光義 SEC研究員 丸山 秀史
SEC研究員 遠山 真 SEC研究員 西尾 桂子

1 はじめに

IoT(Internet of Things)に向けた新しい製品・システム開発やサービスが創出され始めており、新しい価値の創造や利便性が高まりつつある。このような状況の中で、IPA/SECはIoTの安全安心を確保するための考え方を示した「つながる世界の開発指針」を2016年3月に公開した^{※1}。本稿では、「つながる世界の開発指針」の産業界への普及展開の状況について報告する。

2 普及展開の状況

2.1 IoT政策への展開

国のIoT政策としてIoT推進コンソーシアムが設立され、その中の専門WGとしてIoTセキュリティWGが発足した。このIoTセキュリティWGに「つながる世界の開発指針」を提案し、IoT機器・システムのセキュリティの指針として全面的に「IoTセキュリティガイドライン」に採用された(2016年7月公開)^{※2}。

2.2 産業界や企業への展開

IoTのセキュリティ強化を目指す業界団体や企業に「つながる世界の開発指針」の展開を働きかけ、協調した活動を推進した。その結果、一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会(CCDS)では、「つながる世界の開発指針」をベースにして、車載器、IoTゲートウェイ、金融端末(ATM)、決済端末(POS)の4つの分野のセキュリティガイドラインを作成し公開した(2016年6月公開)^{※3}。

また、個別の企業に対しては、ITベンダや家電メーカ、組込みシステム機器メーカなどに働きかけ、「つながる世界の開発指針」をベースにしたチェックリストの運用や社内規定などに採用いただいた。

2.3 セミナー開催

「つながる世界の開発指針」を産業界へ周知するために、IPA主催のセミナーや業界団体と協調したセミナー、外部の展示会・セミナーなどで、講演を実施した。2016年度は、合計30回の講演を実施し、のべ395社に参加いただいた。また、民間や業界団体などが主催する展示会では、IPAブースを開設しブースプレゼンなどを通じて約5,000人の方々に「つながる世界の開発指針」の書籍を紹介した。IPAホームページに開設したダウンロードサイトからのDL数は、約7,000件の実績となった。

3 関連施策

3.1 IoT高信頼化機能への具体化

「つながる世界の開発指針」を開発現場に展開するために、IoT機器・システムを開発するときに考慮すべき安全安心を実現する12の機能要件と23の機能をまとめた。

また、IoT高信頼化機能で取り上げた異常の監視機能の一部をFAシステムとスマートエネルギーシステムの連携モデルで実証実験を実施した(2017年5月公開)。



3.2 利用時品質の観点からの留意点抽出

IoTを利用する人や場面は、拡大の一途をたどるが、誤操作などで安全が損なわれることが懸念されている。そこで、利用者視点に立った安全安心なIoT製品・システムを開発するために、考慮すべき利用時品質の視点をまとめた(2017年3月公開)。今回まとめた利用時品質は「つながる世界の開発指針」にも反映し、改訂版を発行した(2017年6月発刊)。

4 今後の活動

2017年度は、業界団体との協調による更なる普及活動の加速と共に、国際標準化に向けた活動とIoTの品質にかかわる検証・評価の検討に取り組む予定である。



脚注

- ※1 <http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20160324.html>
 ※2 <http://www.meti.go.jp/press/2016/07/20160705002/20160705002.html>
 ※3 https://www.ccds.or.jp/public_document/index.html